

4 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析（平成26年速報）

1) 普通作物

(1) 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
苗立枯病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや少	定点調査での発生は見られなかったが一部で発生が確認された。	適切な防除が実施されている。
葉いもち	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	7月上旬に好適感染日が連続したため、一部ほ場で発生が見られた。防除を適切に行っていない地域では被害程度の大きいほ場も確認された。	ここ数年葉いもちの発生が少なかったため、菌密度が低いと考えられる。気温の上昇にともない好適感染日が減少傾向にある。
穂いもち	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	県北部を中心に発生が見られた。一部葉色の濃いほ場では甚発生も見られたが全体としてはやや少ない状況だった。	葉いもちの発生はやや少なく、7月中旬からは大きく天候が崩れることもなかったため、被害の拡大は少なかった。
紋枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	7月の発生はやや少なかったが、8月以降発生が広く見られるようになった。一部で高い程度のは場もみられたが、全体としては平年並だった。	7月下旬より高温となり発生に好適な条件だった。稲の生育が過繁茂だったため、発生が助長されたほ場もみられた。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	定点調査での発生は少なかった。	概ね適切な種子消毒や育苗管理が行われた。
稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	県全域で発生が見られたが、発病程度は低かった。	7月上旬は降水量が多かったため感染に好適であった。防除はほとんど実施されていないため、ほ場の菌密度が高いほ場で発生している。
縞葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：並	県全域で発生が見られた。県中南部では発生程度の高いほ場が見られたが、前年より被害程度は低かった。	ヒメトビウンカ第一世代幼虫の保毒虫率が高かった。 8月上旬本田でのヒメトビウンカの発生量は平年並だった。
黄萎病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
ヒメトビウンカ	平年：早 前年：並	平年：並 前年：やや少	本田の飛込み時期は早い傾向。 5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生程度は平年並。	麦での生息密度は高かった。6～7月の降雨（特に夕立）により水田への飛来がやや抑えられた。
ツマグロヨコバイ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並。	7～8月上旬の気温が高く推移したが、降雨などの影響により、発生には好適な条件ではなかった。
セジロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は少ない。 8月上旬の本田におけるすくい取り調査の発生量はやや少。	本県への飛来は少なかった。
トビイロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	予察灯における誘殺は認められなかった。	本県への飛来は少なかった。
ニカメイガ	平年：やや早 前年：並	平年：並 前年：やや少	フェロモントラップによる越冬世代成虫の発生量はやや少ない。 7月中旬の心枯茎の発生株率はやや少なく、8月下旬から9月上旬の白穂の発病稔率は県中部を中心にやや多い。	越冬幼虫の発生程度はやや少なかったが、7～8月上旬の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
コブノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや少	予察灯における誘殺数は少ない。	本県への飛来は少なかった。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。	越冬世代成虫の越冬密度が低かったため、発生量はやや少なかった。
イネツトムシ（イチモンジセセリ）	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや少	7月上旬の発生程度はやや少、8月上旬は平年並。	適切な箒施用剤の使用により、被害程度は低い。
イナゴ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生程度は平年並であった。	
斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメは平年並、ホソハリカメムシは平年並）	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：並	7月中旬のイネ科牧草地での発生量は多。8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生量は平年並。クモハリカメムシはやや少、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメは平年並、ホソハリカメムシは平年並。	6月中下旬の気温が高く、カスミカメシ類の増殖に好適であった。7～8月上旬の気温は高く推移したが、降雨により、水田への飛来が抑制された。

(2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	定点調査での発生は見られなかった。	定点調査での発生は見られなかった。
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや少	5月中旬まで発生は少なかった。5月下旬の調査でも小麦で軽微な発生が見られる程度だった。	登熟期間の5月中下旬が高湿・少雨だったため、発生に不適だった。
大麦萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	3月に六条大麦の一部で発生が見られ、ほ場によっては発病程度の高いところも見られた。	二条大麦はⅢ型抵抗性品種に切り替わった。
小麦萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	4月中旬調査で、罹病性品種の作付けが多い地域で発生が見られた。	一部地域で罹病性品種の作付けが増加した。
大麦斑葉病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	健全な種子が供給された。

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
べと病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：やや多	8月中旬から発生し、発病は高い状況が続いた。	べと病に弱い品種が作付けされた地域で発生が見られた。
コガネムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	県中部のの予察灯ではオオクロコガネ誘殺数がやや多く、他地点は平年並であった。	堆肥を利用する飼料作物が多い地域では、成虫が大豆に飛び込む機会が多い。
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：並	8月中旬はやや少、9月上旬は多かった。	8月下旬以降、低温傾向となり発生に好適となった。
ダイズサヤマバエ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
シロイチモジマダラメイガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
マメシンクイガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
吸実性カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	フェロモントラップによるホソヘリカメムシの誘殺はやや早い傾向。 ほ場での吸実性カメムシ類の発生程度は8月中旬は平年並、9月上旬はやや少。	ほ場では主にホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ブチヒゲカメムシ、クサギカメムシが観察された。
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップによる成虫誘殺はやや早くやや多い傾向。 大豆における幼虫の発生ほ場率は8月中旬は高く、9月上旬は平年並。幼虫頭数は9月上旬は若齢～中齢を中心に多く、発生程度は多。	8月下旬～9月の気温がやや低く、8月下旬から降水量が多く、発生がやや抑制された。
フタスジヒメハムシ	平年：並 前年：やや遅	平年：やや少 前年：やや少	発生程度は、8月中旬は多、9月上旬は平年並であった。	8月下旬～9月の気温がやや低く、8月下旬から降水量が多く、発生がやや抑制された。

2) 野菜

(1) いちご (親株・育苗床：平成26年6～9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	6月から親株で平年並の発生が見られ、育苗期後半以降やや多くなった。夜冷処理施設で発生が多く、全株処分したほ場が見られた。	潜在感染苗の持ち込みによって施設内で広がった。8月中旬の降雨と高温により、発生が助長された。QoI剤に対する耐性菌の発生が認められ、薬剤効果の低下が考えられた。
萎黄病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	親株において一部のほ場で発生が認められたが、8月までは全般に少ない発生であった。9月になって散見されるほ場が見られ、中には多発したほ場もあった。	前作の本ほ場で発生が見られた生産者において発生が見られたことから、親株床や育苗床へ汚染土壌が混入したと考えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	親株から育苗期の全般で発生が少なかった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であったが、9月に多発生のほ場が見られた。	8月の降雨と日照不足により、9月に発生が増加した。遮光したほ場での発生が目立った。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	6～7月は平年並み、8月はやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	6～8月は平年並み、9月はやや多い発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：並	平年：やや少	親株、育苗期間を通してやや少～少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(2) トマト (夏秋:平成26年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	全般に少ない発生であった。	5~7月の気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑制された。
灰色かび病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:やや少	ごく一部のほ場で発生が見られたが、全般には少ない発生であった。	7月中下旬の低温・降雨により、一部で発生しやすい条件となった。
葉かび病	平年:やや早い 前年:やや早い	平年:多 前年:多	抵抗性品種での発生が見られた。また、病徴が類似したすすかび病が混発したほ場も見られた。発生ほ場では6月上旬の集中的な降雨により発生が急増した。全般には多い発生であった。	抵抗性品種で多発したほ場が見られ、新レースの発生が疑われた。前年度に多発したほ場では、菌株のレース検定の結果から本県未確認の4.9であることが明らかになった。(H26.7.24特殊報)
モザイク病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	全般に少ない発生であった。一部のほ場でキュウリモザイクウイルス(CMV)による糸葉症状や果実の着色不良が散見された。	6~7月のアブラムシ類(媒介虫)の発生が少なかったため、発生が抑制された。
黄化葉巻病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	全般に少ない発生であった。	育苗期からコナジラミ類の適切な防除が行われた。
アブラムシ類	平年:並	平年:やや少	6~7月は少なく、8月は平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年:並	平年:並	6月はやや少なく、7~8月は平年並みの発生であった。	育苗期からコナジラミ類の適切な防除が行われた。
ハモグリバエ類	平年:並	平年:やや多	6~7月は多く、8月はやや多い発生であった。	発生は広くみられたものの、実質的な被害はほとんど生じていない。

(3) なす (夏秋:平成26年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年:並 前年:やや早	平年:やや多 前年:並	6月はやや少ない発生であったが、7月以降やや多い発生となった。	6、7月の集中的な降雨や日照不足により発生が助長された。
灰色かび病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
半身萎凋病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	全般に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっているが、過去に発生したほ場での発生が見られる。
青枯病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	8月までは少ない発生であったが、9月になって一部のほ場で発生が見られた。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっているが、過去に発生したほ場での発生が見られる。
ハダニ類	平年:並	平年:並	6~8月には平年並み、9月はやや多い発生であった。	薬剤感受性の低下によると考えられる多発ほ場が認められた。
アブラムシ類	平年:並	平年:やや多	6月は平年並みであったが、7月は多く、8~9月はやや多い発生であった。	防除の遅れおよびアブラムシ類を対象とした防除圧が低いことが増加の一因と考えられる。
アザミウマ類	平年:並	平年:やや多	7月は平年並み、6月および8~9月はやや多い発生であった。	薬剤感受性の低下によると考えられる多発ほ場が認められた。

(4) きゅうり (夏秋:平成26年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年:並	平年:少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
べと病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	一部ほ場で発生が目立ったが、全般には平年並の発生であった。	定植が早いほ場で発生が目立った。
うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	生育初期から発生が見られ7月までは平年並、8月以降は全般にやや少ない発生であった。	7月中下旬の低温により発生が抑制された。
褐斑病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:少	8月までは発生が少なく、9月になってから散見されるほ場が見られた。	罹病性品種で発生した。
疫病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	一般的に少ない発生であった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
ハモグリバエ類	平年:並	平年:少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年:並	やや多	一般的に平年並みの発生であったが、6月には多い発生であった。	栽培末期の施設が多かった6月には多発の評価となった。一度施設内で発生すると、薬剤抵抗性発達のため、防除が困難である。
アブラムシ類	平年:並	平年:やや少	一般的に少ない発生であったが、6月には多い発生であった。	栽培末期の施設が多かった6月には多発の評価となった。

(5) ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：多	8月までは少ない発生であったが、9月に発生が増加した。全般には少ない発生であった。	8月の高温、少雨であったため発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	全般に平年並の発生であった。県中南部では、黒斑病と葉枯病が混発した場面多く見られた。	
萎縮病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	アブラムシ類（媒介虫）の発生が少なかったため、発生が抑制された。
アブラムシ類	平年：少	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年並	平年：やや多	全般にやや多いの発生であった。	生育期には寄生が多いものの、収穫前の適切な防除により被害は抑えられた。
ハモグリバニ類	平年並	平年：やや少	7～8月は少なく、9月は平年並み発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギコガ	平年：少	平年：やや多	全般に少ない発生であった。	全般に少ない発生であった。

(6) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：やや遅 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	4月にはいって急増したが、5月には平年並の発生となった。全般にはやや多い発生となった。	3月下旬～4月上旬の多雨により発生が助長された。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：多	4月は平年並み、5月の発生は多かった。	商品部位を直接加害しないため、防除対策が遅れがちである。
アザミウマ類	平年：並	平年：並	全般的に平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(7) 野菜共通（さといも、だいこん）

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：やや早	平年：多	フェロモントラップの誘殺開始は平年より早く、発生量は多かった。	
オオタバコガ	平年：やや早	平年：やや多	フェロモントラップの誘殺開始は平年より早く、発生量はやや多かった。	

3) 果樹

(1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：並 前年：並	発生量は、5～7月はやや少なく、8月は平年並となった。	開花後（5月上旬）の降水量が少なく、日照時間も多かったため、発生に不適な条件となった。その後、7月上旬および8月上旬に日照不足と多雨により、発生が平年並となった。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	5月～7月の発生は平年並で、8月にやや多となった。	4月の降水量が少なく、発生に適した条件ではなかった。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	5月はやや多い発生であったが、6月以降はやや少なく推移した。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並	平年：平年並	5～7月は少なかったが、8月はやや多い発生であった。	一部のほ場では、カメムシ防除に伴うリサージェンスが疑われる。
ハマキムシ類幼虫	平年：並	平年：やや少	5～7月は少なかったが、8月はやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晩腐病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	7、8月に散見されるほ場があったが、全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：やや遅い 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	5～7月は少ない発生であったが、8月に平年並の発生となった。	5～6月の気温は平年に比べ高く、日照時間も多かったため、発生が抑制された。
黒とう病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	7月以降、一部の品種で発生が見られた。	5月の降水量は平年に比べ少なく、発生が抑制された。
チャノコカクモンハマキ	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：やや遅い 前年：やや早い	平年：やや少 前年：やや少	7月と9月に平年並の発生が見られたが、全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	産地のビャクシン類が少なく、飛散胞子量が少なかった。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	8～9月に平年並の発生が見られたが、全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
輪紋病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	
ハダニ類	平年：並	平年：多い	7月は平年並、8～9月は多い発生であった。	一部のほ場では、カメムシ防除に伴うリサージェンスが疑われる。
アブラムシ類	平年：並	平年：少	8月は平年並みであったが、全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類 幼虫	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：並	平年：多	フェロモントラップによる誘殺数は、多く推移した。	昨年度のスギ・ヒノキ花粉量が多く、今年度は少なかったことから、山林で多発したカメムシ類の果樹園への飛来が多くみられた。
ナシヒメシクイ	平年：並	平年：並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並みで推移した。	適切な防除により発生が抑えられた。
リンゴコカクモンハマキ	平年：並	平年：やや多	誘殺数はやや多かった。	適切な防除により発生が抑えられた。

4) 花き

(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	4月～6月にかけて発生が見られた。	品種によって発病に大きな差がある。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや少	5月にはやや多かったが、その後は少なく推移した。	一部で防除が遅れたほ場も見られた。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	5月は平年並みであったが、以降は多～やや多く推移した。	昨年から引き続き多い発生が続いている。薬剤抵抗性の発達により、一度増加すると防除が困難である。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	5～8月は平年並みであったが、9月には多発生となった。	防除の遅れや薬剤抵抗性の発達による増加が疑われる。
ハスモンヨトウ	平年：並	平年：少	5～8月は少なく推移したが、9月にはやや多い発生となった。	一部で防除が遅れたほ場も見られた。